

1 自己評価及び外部評価結果 (※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103316
法人名	株式会社 アニマート
事業所名	あさひの家 【ユニット名:】西棟
所在地	和歌山県和歌山市朝日21-1
自己評価作成日	平成24年2月7日
評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103316&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成24年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の方々が気軽に、訪問していただけるような雰囲気作りを全体で心がけています。笑顔と生きがいを大切に、一人ひとりに寄り添いながら支援しています。利用者とスタッフという感覚より、「家族」という感覚を大切に日々を穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

採光の良いモダンな造りで、田園風景が見渡せる食堂・居間には生活の場としての家庭的な安らぎがある。個々の居室はトイレと洗面台が設置された広いスペースがあり、各入居者の好みに整えられている。2つのユニットをつなぐ渡り廊下の両側の中庭では季節の花や野菜作りを行っており、四季折々の自然を感じることができる環境となっている。入居者のペースに合わせて日々の暮らしが組み立てられていて、食事の準備や、調理など、時間がかかっても皆が力をあわせて行えるよう取り組んでいる。入居者と料理本を見て献立を考え、日々の食材の買出しにも入居者と共に出かけている。買い物、散歩、ドライブなど、外出の機会が多く設けられ、馴染みの人や場所、地域との繋がりを持てる支援が行われている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人に寄り添いながら共感し、その人らしい生活が継続できるよう、また笑顔が見られるようにと作り上げた。	ユニット毎に作成され、毎朝の朝礼で唱和し暗記している職員もいる。理念の中に地域とのつながりの部分が見えにくいので、理念に基づく実践であることが認識しにくい部分もある。	地域とのつながりを持った毎日の暮らしにおける部分についてもイメージしやすい理念であることが望ましく、ケアの実践の根幹として活用されることに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 地域活動にも参加している。	自治会に加入しており、溝掃除等の地域の活動に入居者が一緒に参加することもある。日常の暮らしの中の地域との交流の中で認知症の理解が得られることを図り、回覧板も入居者が届けるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員間で役立つこと等の話はしているが、地域の暮らしについては改善点がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回から開催日までの行事等の報告や今後の予定や検討事項・課題・反省におけるまで報告や意見交換を行っている。	会議で出された意見や要望が運営に反映されている。グループホームの長所や特性を地域住民に知ってもらうことなど、具体的な意見が出ており、メンバーの民生委員を通して民生委員の見学会も行なわれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加し、市町村担当者とサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは事務連絡以外に関わる機会は少ない。	グループホームとしての社会的信頼を築くうえでの制度のあり方を共に考えていけるよう、機会を見つけては市に出向いて働きかけ、協力関係の構築を図ることが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由に出入りできるようにしています。安全面を考慮し、ドアが開くとチャイムが鳴るようにしています。	鍵をかけないでドアチャイムを利用しながら、入居者の行動パターンを把握して見守るようにしている。言葉かけにも注意して、言葉で行動を制限してしまわないように気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞の切り抜きを利用したり、勉強会、会議等での理解や遵守に取り組んでいます。		

【事業所名】あさひの家 ユニット名：西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人様がついている利用者様もおられるので、後見人様とコミュニケーションをとりながら学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書について契約時には丁寧に説明をし同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはできるだけ話をする機会を設けています。話しやすい雰囲気作りにも心がけています。	家族の訪問は多く、少ない人でも月に一度は来訪している。家族の意見が聞けるよう家族が気軽に話しやすい雰囲気となるよう心がけている。敬老会とクリスマス会の際に家族会を開くなどの取り組みも行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、運営会議を実施して、意見交換をしています。	入居者の暮らしが便利になること、必要と思われることを、日常的に職員は管理者に提案できており、管理者は、入居者が楽しく過ごせるには職員も楽しくなければならないとの考えで、意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表などを用い、話をする時間を設けたり、必要なときは時間を取り話し合う時間を設けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議や毎日のミーティングで話し合っています。施設外研修などの結果を共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市町村での研修や勉強会に参加し、意見交換を行ったり、また検討会を通じて事業所外の意見や経験を参考にしている。		

【事業所名】あさひの家 ユニット名：西棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、それまでの生活歴や状態を把握するように努めている。利用者には必ず本人に会って話をする機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や悩み事等をゆっくり聞くようにし、どのような対応やサービスができるかを話し合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合、自社の対応に拘らず可能な限り柔軟な対応が行えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をもたず、生活できるよう努力している。また、職員が利用者から助言を受けたり励まされたりすることもあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を実施して利用者の様子など情報交換を行い日々の暮らしの出来事を共有するよう勤め家族と同じ思いで支援していくことを考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人が気軽に立ち寄れるように働きかけている。	入居者との日常の会話から馴染みの人や場所を知ることができるよう関わり、本人の話が聞けたときは家族にも確認し、馴染みの人に手紙を書いたり、馴染みの場所に立ち寄りしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように職員が架け橋になるよう努力している。		

【事業所名】あさひの家 ユニット名：西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合でも面会に伺う等している。家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	地域や社会、さまざまな接点を見出し周辺施設やボランティアへの協力を呼びかけ訪問してもらったりしている。	調理や掃除を一緒に行いながら希望を聞けるように努め、本人の行動もよく観察して理解できるように接している。料理の本を見ながら好みのメニューを取り入れたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前や利用後にも本人や家族、関係者に聞き取りをしどのような生活をしていたか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の生活の中でもできる事、できないことを発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に日頃の生活の関わりの中で思いや考えを聞き反映させるようにしている。アセスメントは職員全員でモニタリングし意見交換している。	アセスメント情報と支援計画、三ヶ月ごとのモニタリングが一体となった独自の書式の介護計画が作成され、その内容の中で職員による話し合いが持たれているが、複雑な様式で内容の流れが分かりにくいところがある。	アセスメントからニーズをとらえ、どう支援していくか、その支援での評価はどうであるかの一連の流れを、職員間で共有でき、介護計画の内容が明確となるような様式の検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には、本人の言葉、エピソードも残すよう心がけている。すべての職員が把握できるよう、申し送り等で伝達、確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて個別に柔軟な支援ができるように心がけている。		

【事業所名】あさひの家 ユニット名：西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や社会さまざまな接点を見出し周辺施設やボランティアへの協力を呼びかけ訪問してもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。基本、家族同行受診となっているが、緊急時や不可能時は、職員が同行している。事前にその旨も説明し同意を得ている。	入居時に、かかりつけ医の受診の希望を聞き、家族ができないときの通院介助を支援している。毎月、協力医が往診に来る仕組みができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関と連携を取れる体制が確保されている。24時間相談でき、指示・助言も受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を提供し、頻繁に職員も見舞うようにしている。医師・看護師・家族と情報交換をしながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い事業所が対応できる最大のケアについて担当医を交え説明、話し合いを行っている。終末に対する対応についても同様に話し合い状況に変化があれば再度話し合い支援につなげている。	重度化の兆しを察知した時点で、事業所できることを説明し、本人・家族・主治医と話し合っている。支援体制が不十分なときは、地域での次の支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員による指導を定期的に受けている。夜勤時、緊急時の対応方法、連絡方法についても徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士や、救急隊員による指導を受けている。スプリンクラー・消火設備も定期的に点検している。	防災計画書が作成され、年2回避難訓練を実施しているが、混乱が予測されるため、入居者は参加していない。定期的にスプリンクラー・消火設備の点検を行い安全に備えている。	実際に災害が発生したときに、速やかな避難ができるためには、入居者を交えた訓練を重ねていくことが望ましい。

【事業所名】あさひの家 ユニット名：西棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や会議の他に、日々の業務の中でも、職員の意識を見直し、向上を目指すと共に、プライバシーを損ねることがないようにしているが、忙しいときはできていないことがある。	言葉かけを大切にしプライバシーの配慮したケアを心がけている。排泄介助の場合も入居者の表情で理解し、さりげなく各居室に設置されたトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個々に合わせた声かけを行ったり、表情、態度からも思いを読み取る工夫が不足している。職員ペースの対応になる時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるも、その日より臨機応変な支援ができるよう努力している。利用者の「したくない」気持ちも大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型は、本人の意向で決めており、職員は必要な時に手伝うようにしている。地域の馴染みの理容店で希望に合わせカットを行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付けも共にしている。利用者と職員と一緒に食事している。中庭でみんなで育てた野菜なども調理している。	朝食は各自の起床時間に合わせて、パン食やおかずなど、希望にあわせて選ぶことができる。昼食や夕食は、献立、買い物、調理・盛り付け・配膳・片付けも共に力を合わせて行い、食事の楽しさを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は残食量等も確認して職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性、または効果を職員が勉強会や研修で理解できるように努めている。就寝前には義歯洗浄も行ってるが、全員実施できている状況ではない。		

【事業所名】あさひの家 ユニット名:西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を最小限に、パットやパンツを使用している。排泄パターンを把握した上で、トイレ誘導を実施、支援している。	各部屋にトイレがあり、排泄のパターンが把握でき誘導の声かけで支援が行われている。失禁回数が増えると職員間で原因を探って方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では食材に気をつけたり、水分量をチェックしたりしています。 散歩や家事等で身体を動かす事ができるよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望は利用者に決めて頂いています。 拒む人に対しては、声かけ・対応を工夫してその人に合わせた入浴支援を試みています。	自由に入れる希望に添った入浴ができており、タイミングや声かけを工夫して、拒否する人もなく楽しめる環境が提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えていけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに整理し、職員が内容を共有し把握できるようにしている。服薬は必ず本人に手渡し服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野など一人ひとりの力が発揮してもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に日々実施しています。 外食やドライブ、日帰り旅行など積極的に、企画、実施しています。	日常的に買い物や散歩によく出かけており、月に1回はみんなで行き先を決めて日帰り旅行や外食を楽しむ機会を設けている。	

【事業所名】あさひの家 ユニット名:西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に一定額をいれ、個人で管理していただいています。買い物に出かけたときなど、本人が支払いをしたりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる状態にしている。手紙、年賀状のやりとりや、友人・知人の方々が手紙を送ってこられたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、こたつを置き自由に使えるスペースがある。玄関には四季折々の花をいけたりして楽しんでいる。	周囲の田園風景を広く見渡せる居間と食堂はやすらぎのある居心地の良い雰囲気、畳のスペースには中庭に出られる縁側も設けられている。随所に椅子やソファが配置されており、思い思いに過ごせる場が用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・中庭などにはベンチがあり話をしたり、くつろいだりできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や日用品を持ってきて頂いています。	居室は広く、洗面台とトイレが設置されている。畳ベッドが備品として使用でき、カーテン、布団、家具など個人の好みで整えられている。好きな写真を飾ったり、好みの物が自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室扉は、色が違い一人ひとり分かりやすくなっています。自室付近には写真を多く飾っています。		